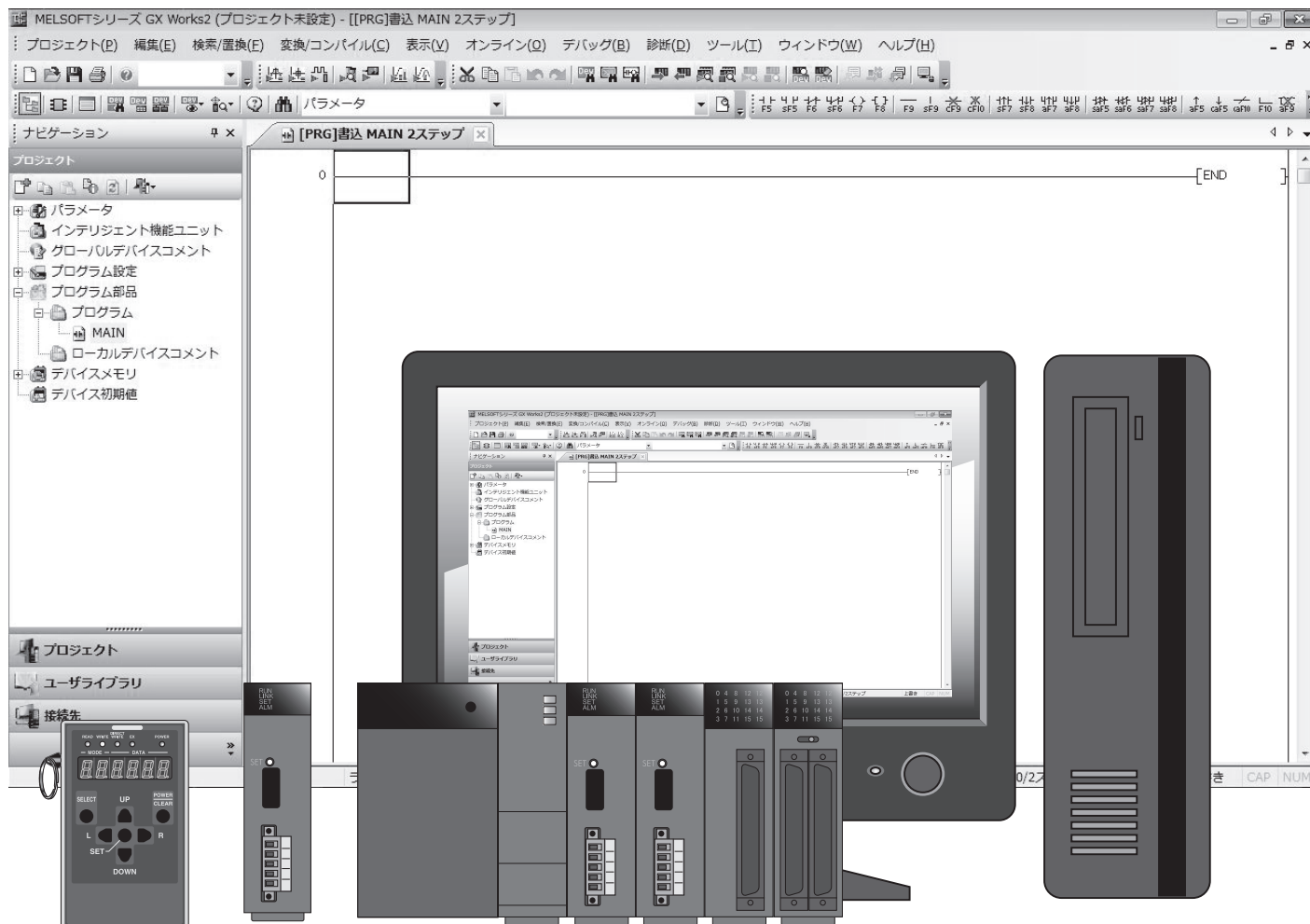


AnyWireASLINK

スタートアップガイド (GX Works2 初期設定編)



はじめに

本書では、AnyWireASLINKシステム立ち上げ時、配線後に必要となる基本的な設定内容について分かりやすく説明しています。

- 1) エニイワイヤのアドレス設定
- 2) GX Works2による設定
- 3) GX Works2によるIOの確認

●使用上の注意事項

エンジニアリングツール、CPUに関する詳しい内容は、それぞれのユーザーズマニュアルをご確認ください。
AnyWireASLINKのスレーブユニットについての詳細は、それぞれのプロダクトガイドをご確認ください。

●マスタユニットのタイプについて

本書ではQJ51AW12ALを使用する例を記載しています。
ほかのマスタを使用する場合はマニュアルを確認し、相違点に注意してください。

●機能の対応について

マスタユニットの製造情報や、GX Works2のバージョンによる対応機能の差については、それぞれのマニュアルにて確認し、注意してください。

●記載事項の変更

本書に記載している内容は、お断りなしに変更させていただく場合があります。

1) エニイワイヤのアドレス設定

■エニイワイヤの「アドレス」とは？

「アドレス (Address)」は言葉の通り、スレーブユニットが使用するメモリの先頭番地を決定するものです。10進数で設定します。

占有点数はスレーブユニットによってさまざまですが、設定したアドレス番号を含め以降自身の点数分を占有します。

〔 BL296SB-08F-V50(入力8点のスレーブユニット)の例 〕

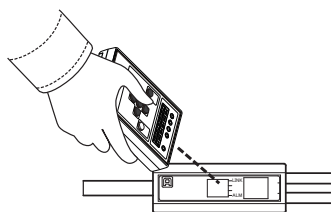


■アドレス設定のルール

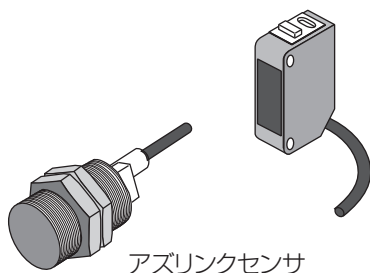
①専用アドレスライタ (ARW-04) を使用し、赤外線通信によって設定します



アドレスライタ (ARW-04)

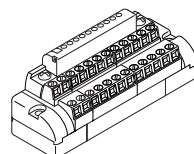
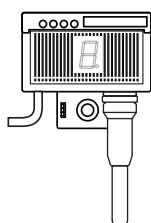


②使用する**全ての**スレーブユニットに対して設定する必要があります



アズリンクセンサ

アズリンクポカよけ



アズリンクターミナル

- ③設定できるアドレス番号は入力・出力ともにそれぞれ「0～254」までです
 空きを作って設定することも可能です
 アドレス番号「255」は出荷時状態を示す特別な番号のため使用できません



ポイント

- ・入出力混合スレーブユニットに設定するアドレスも1つで、入力・出力ともに同じアドレス番号を先頭にメモリエリアを占有します
- ・システムの改造、スレーブユニットの増設などを考慮して、あらかじめ空きを作っておくことも可能です
- ・マスタユニットにはアドレス未設定検知機能（アドレス255番を未設定として検知）があるので、アドレス設定を忘れてしまっても大丈夫！ ※詳しくはマスタユニットのマニュアルをご参照ください

- ④入カスレーブユニット同士、出カスレーブユニット同士で、アドレス番号の重複や占有エリアの重複がないようにします

入力エリア	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32
	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48

NG

4点入力アドレス44番

1点入力アドレス44番

入力(出力)同士のアドレス番号重複

OK

8点入力アドレス0番

入力と出力のアドレス番号重複

8点出力アドレス0番

出力エリア	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32
	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48

OK

1点出力アドレス44番

占有エリアに空きを作ったアドレス設定

NG

8点出力アドレス6番

アドレス0番の占有エリアと重複

■アドレス自動認識の実行

接続する全てのスレーブユニットへのアドレス設定が完了したら、アドレス自動認識を実行します。

〔アドレス自動認識とは?〕

マスタユニットが、接続されているスレーブユニットの構成、アドレス番号などをEEPROMに記憶する操作です。
この操作によって、伝送線断線検知機能が機能します。

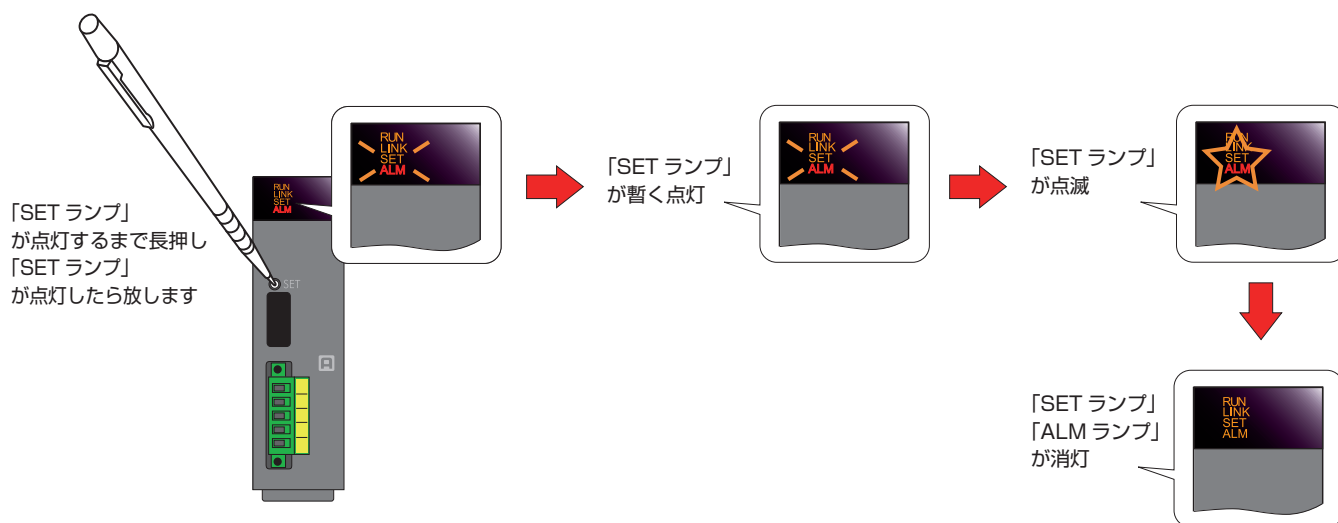
- ・システム立ち上げ時
- ・システムに変更があった時

**このタイミングで
必ず実行してください**

■アドレス自動認識の操作方法

アドレス自動認識の操作方は2通りあります

①マスタユニット本体にあるSETボタンを長押しする方法



②シーケンサ側からのY出力を使って行う方法

詳しくはマスタユニットのマニュアルをご参照ください。
実行時のLED動作は①の場合と同じです。

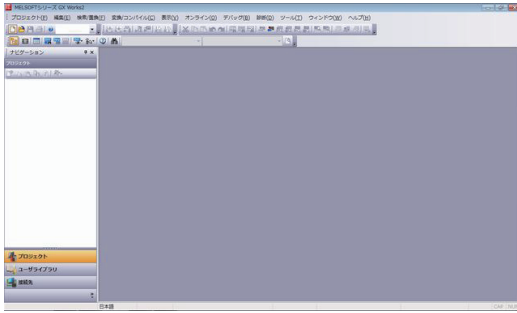
〔ポイント〕

アドレス自動認識を実行する際は、全てのスレーブユニットのLINKランプが点滅状態になっていることを確認してください

マスタユニット通电初期はアドレス自動認識を実行するまで必ず本体のALMランプが点灯状態となります

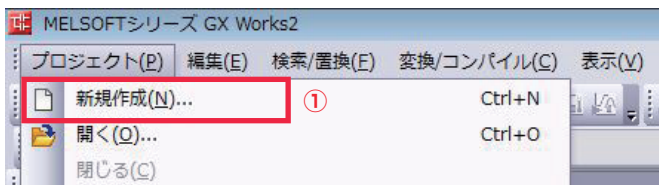
2)GX Works2による設定

■GX Works2を起動する



■新規プロジェクトを作成する

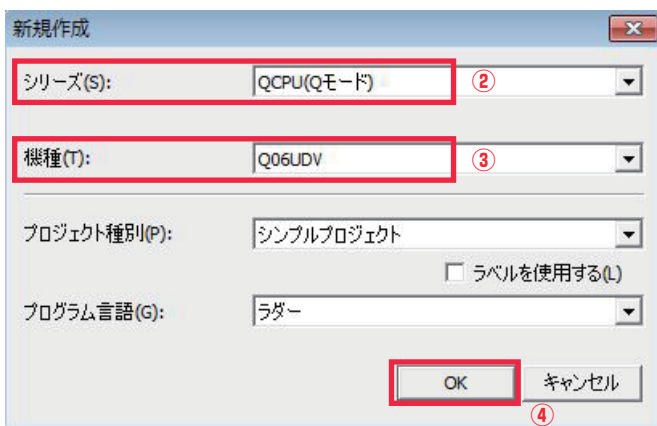
① 「プロジェクト」→「新規作成」を選択



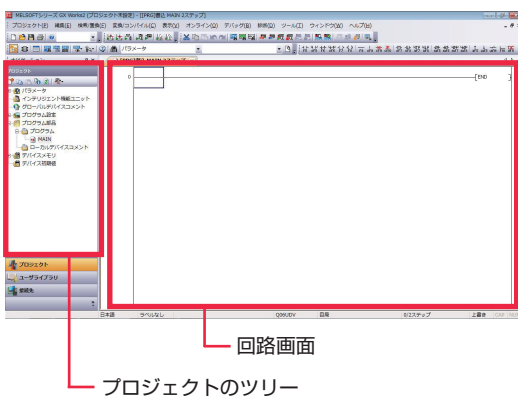
② 「シリーズ」を選択（ここでは「QCPU（Qモード）」を選択）

③ 「機種」を選択（ここでは「Q06UDV」を選択）

④ 「OK」ボタンをクリック



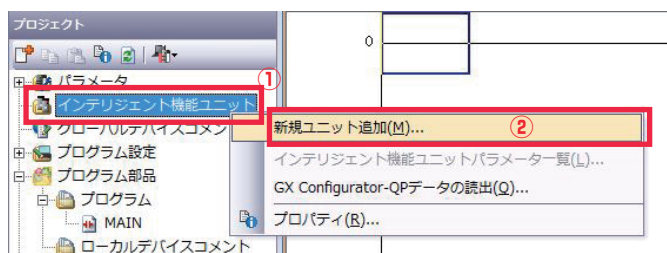
⑤ プロジェクトのツリーと回路画面が表示されます（新規プロジェクト作成完了）



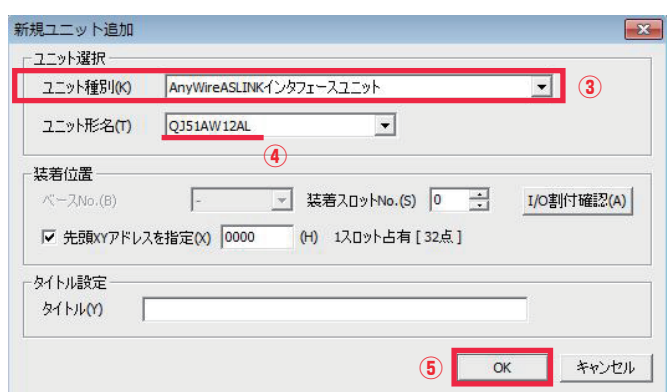
■インテリジェント機能ユニットの新規ユニット追加

「AnyWireASLINK マスタユニット」を追加します

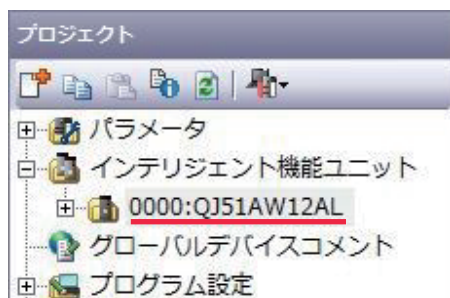
- ① プロジェクトのツリーにある「インテリジェント機能ユニット」右クリック
- ② 「新規ユニット追加」を選択



- ③ 「ユニット種別」で「AnyWireASLINK インタフェースユニット」を選択
- ④ 「ユニット形名」に「QJ51AW12AL」が入ります
- ⑤ 「OK」ボタンをクリック



- ⑥ プロジェクトのツリーのインテリジェント機能ユニットに「QJ51AW12AL」が追加されます



良くある質問

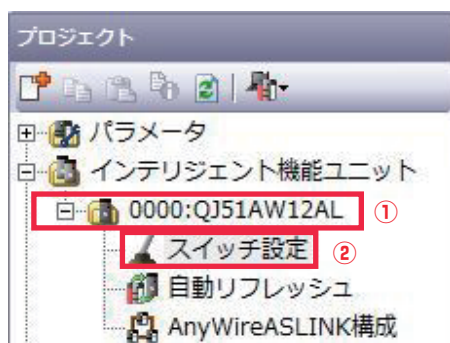
0000:QJ51AW12AL

この数字は「先頭 XY アドレス」を表しています

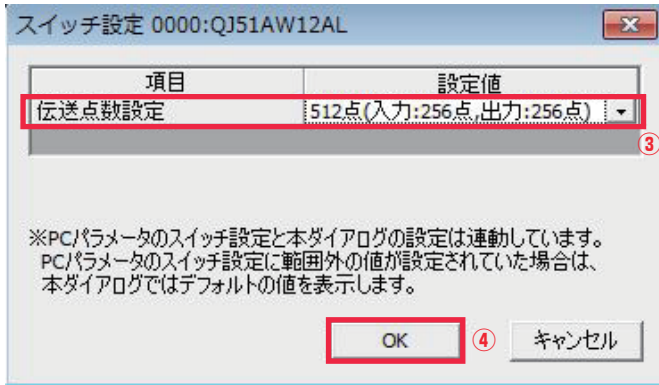
■伝送点数の設定

「AnyWireASLINK システムの伝送点数」を設定します

- ① プロジェクトのツリーの「QJ51AW12AL」をダブルクリック（または「+」をクリック）して開きます
- ② スイッチ設定をダブルクリック



- ③ システムに合わせて「伝送点数」を選択（ここでは512点（入力:256点,出力:256点））
- ④ 「OK」ボタンをクリック



■バッファメモリとデバイスの割付け

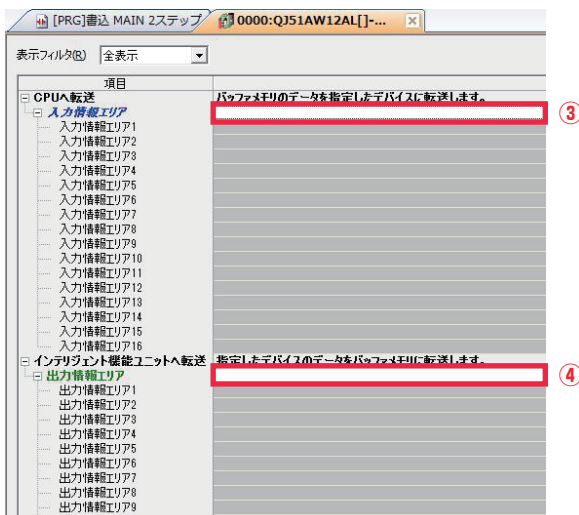
AnyWireASLINK システムのデータは
マスタユニットのバッファメモリを介してシーケンサとやり取りします
バッファメモリと、シーケンサデバイスを対応させる方法は
「自動リフレッシュ」と「プログラミング」2通りがあります

〔自動リフレッシュによる方法〕

- ① プロジェクトのツリーの「QJ51AW12AL」をダブルクリック（または「+」をクリック）して開きます
- ② 自動リフレッシュをダブルクリック



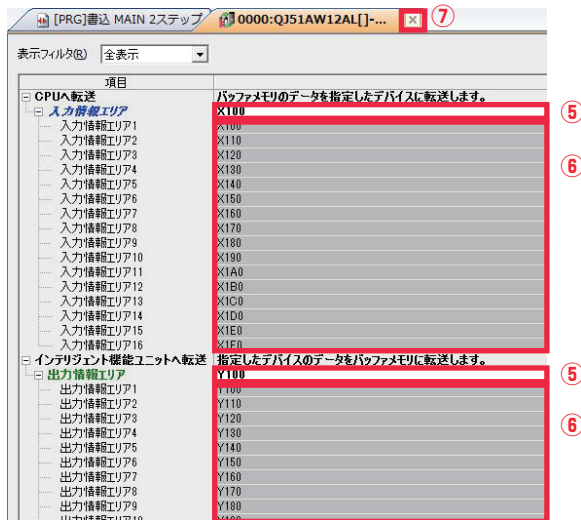
- ③ バッファメモリの入力情報エリア（256点）と対応させたいデバイスの先頭を入力します
- ④ バッファメモリの出力情報エリア（256点）と対応させたいデバイスの先頭を入力します



ポイント

自動リフレッシュによる方法の場合、スイッチ設定で選んだ
伝送点数に関係なく、入力 / 出力それぞれ 256 点分（固定）
リフレッシュします。
256 点以外の点数を対応させる場合は、プログラミングによ
る方法で行います。

- ⑤ 先頭デバイスを入力します（ここでは入力情報エリアが X100、出力情報エリアが Y100）
- ⑥ 自動的に入力（出力）情報エリア 1 ～ 16 にデバイス名が入ります
- ⑦ 「×」をクリックして画面を閉じます



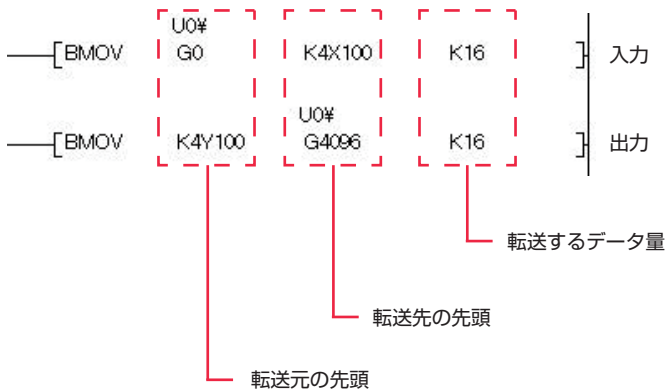
ポイント

「×」で自動リフレッシュの画面を閉じるまで、設定した内容は有効になりません。

設定後「×」で自動リフレッシュの画面を閉じてから「PC 書き込み」を行います。

〔プログラミングによる方法〕

プログラミング例



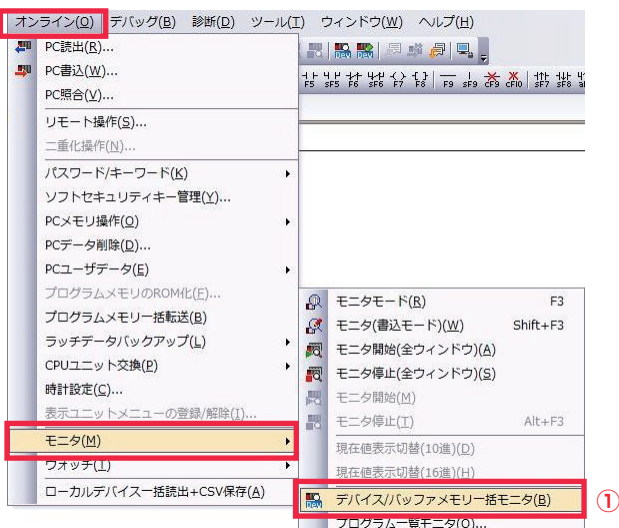
良くある質問

- U0¥** マスタユニットの先頭 XY
先頭 XY (16 進数) を 16 (10 進数) で割った数
例：先頭 XY0020 の場合は「U2¥」
- G0 (4096)**
バッファメモリアドレス (10 進数)
入力情報エリアが「0 ～ 15」
出力情報エリアの先頭が「4096 ～ 4111」
※バッファメモリの詳細は、各マスタユニットのマニュアル
をご参照ください
- K16**
転送するデータ量 (ワード単位)
例：32 点の場合は「K2」

■GX Works2によるIOの確認

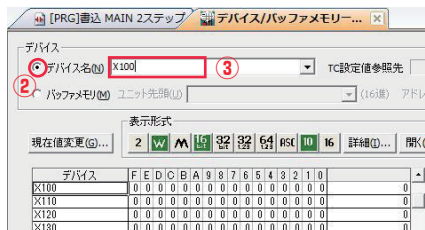
GX Works2 を使って IO チェックを行います

- ① 「オンライン」→「モニタ」→「デバイス / バッファメモリ一括モニタ」を選択します



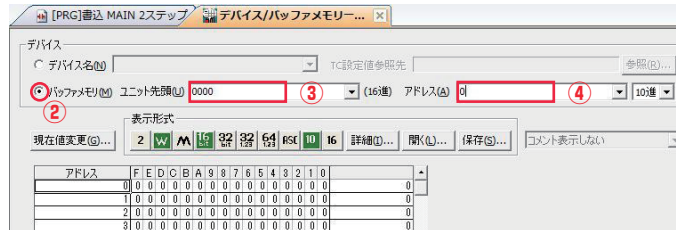
〔デバイスモニタ〕

- ② 「デバイス」にチェックを入れる
- ③ モニタするデバイスを入力する（ここでは X100）



〔バッファメモリモニタ〕

- ② 「バッファメモリ」にチェックを入れる
- ③ ユニット先頭（先頭 XY アドレス）を入力する（ここでは 0000）
- ④ モニタするバッファメモリアドレスを入力する（ここでは 0）



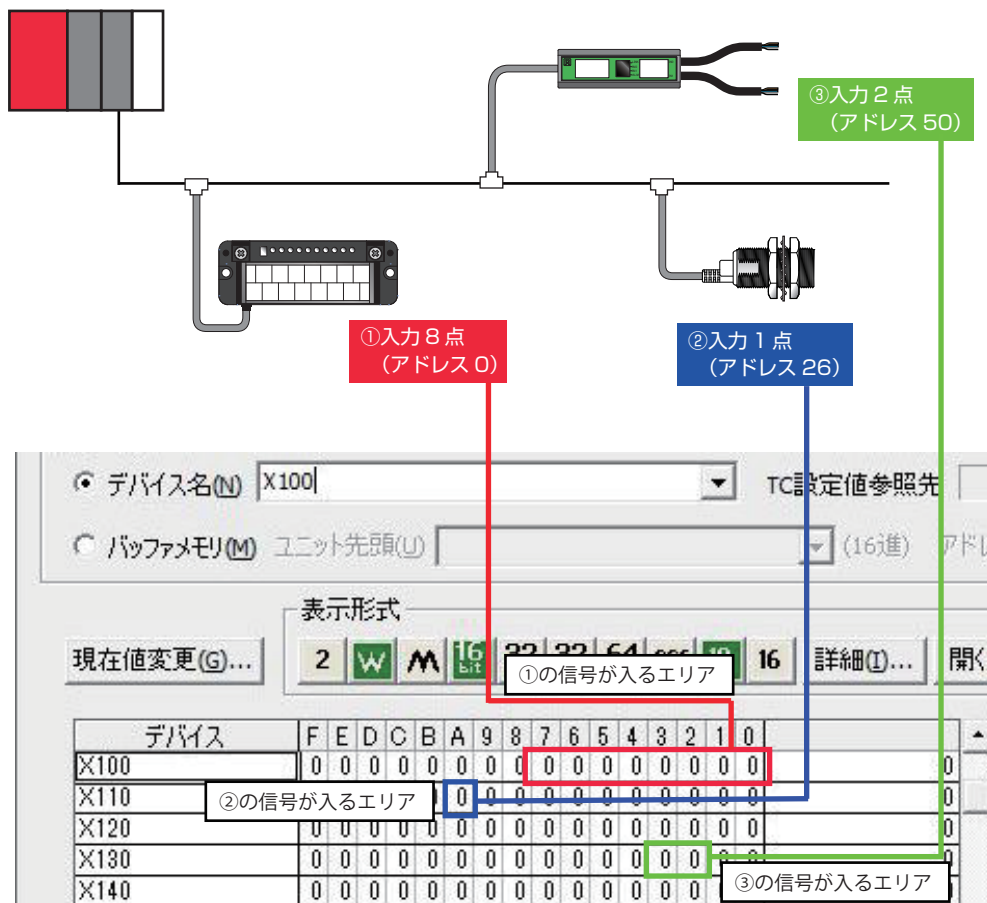
ポイント

バッファメモリとデバイスを対応させる設定が正しく行われていない場合
デバイスを使っての入力モニタや出力動作確認ができません
出力の場合は、デバイスを Y100（例）にします

ポイント

バッファメモリとデバイスを対応させる設定が動いている場合
バッファメモリへの直接書き込みによる出力確認ができません
出力の場合は、バッファメモリアドレスを 4096 にします

〔デバイスモニタの例〕



◆AnyWireASLINK
アドレス番号との対応◆

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32
63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48
79	78	77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64

Anywire 株式会社エニイワイヤ

本 社 : 〒617-8550 京都府長岡京市馬場図所 1
TEL: 075-956-1611(代) / FAX: 075-956-1613

営業所 : 西日本営業所、東日本営業所、中部営業所、九州営業所
<http://www.anywire.jp/>

お問い合わせ窓口:

■ テクニカル サポートダイヤル

受付時間 9:00～17:00(土日祝、当社休日を除く)

075-952-8077

■ メールでのお問い合わせ info@anywire.jp

PMA-17432AE